

# 週 報

1995年12月31日 待降節第1主日

巻16 40号

1995年度教会主題

「恵みに生きる」

聖句 すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。

コリントの信徒への手紙 二 12章9節a  
目標 1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。  
2. 一人一人が伝道と奉仕を。

日本キリスト教団 横浜港南台教会

〒234 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電 話 045-833-5323

ファックス 045-833-6616

振 替 00290-4-13994

牧 師 秋 吉 隆 雄

巻頭を書いている。その終りを「武力を有するものは武を慣し、力を有するものは力に溺るるを免れない。武力なく権力乏しきものにも、文化を培い道義に起つことは許される。この道の外に日本の生きるべき道はない。而もこの道こそ、本当の国家の生きゆく栄光の道ではないか。真実を認識し、真実に堪え、知慧の光に導かれ、強く正しく、じっくりと歩みゆく日本の前途に光明あれ。」と結んでいる。敗戦の三ヶ月後、格調高く希望に満ちて書かれている。

戦後50年経った現在、氏の期待と希望のように、いかなかったことを誰もが認めざるを得ない。私たち日本人は、周りの状況にあまりにも容易く流されるのではないか。戦争中はただ戦争へ、戦後は経済至上主義で突っ走り、批判の声や疑義さえ起こらなかった。これからは、私たちただの人々が立ち止まってしっかり見て批判する精神が求められる時代となる。又そうならなければならない。信仰は暗さの中にも常に希望を持つということであろう。

## 一牧師室から一

1995年も終る。今年も戦後50年で、色々な催しがあり、声明や論文が出された。戦後処理をきちんとしなかったツケを延々と引きづっている。従軍慰安婦をはじめアジアの被害者たちは、バブルではじけた金融業界救済のため支払おうという膨大な金額を見て、どう思うだろうか。人倫のかけらもないと思うに違いない。

岩波の月刊誌「世界」が50周年を記念して「主要論文集」を出した。私には敗戦直後の論文が興味深い。創刊号で、幣原内閣の文相をした哲学者・安倍能成氏が「豪気と真実と知慧とを」という